

平成19年度 農林水産試験研究 中間評価結果（外部評価）

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	コメント	左記に対する対応
1	畜産総合センター	需要適用型堆肥の安定生産・利用技術試験	H15～20	<p>目的：堆肥利用者ニーズに基づいた堆肥生産・利用技術を確立し、堆肥利用の拡大を図る。</p> <p>内容：堆肥生産・利用技術の開発および堆肥利用支援プログラムの作成 堆肥利用者が望む堆肥品質調査 家畜ふん堆肥の品質安定化および肥効調査 堆肥利用現場に合った堆肥生産・利用技術の開発</p>	B	<p>・ブレンド堆肥の副資材価格や製品堆肥の単位当りの設定価格は、普及性に大きく影響すると思われるので、家畜排せつ物の利用の視点のみならず、それを利用するサイドの視点も入れて研究することを望む。</p> <p>・微生物はブラックボックスのままが良いが、ブラックボックスの内部過程は、条件が同じであれば同じ結果を生ずることを確認しておく必要がある。</p> <p>・家畜排せつ物堆肥の安全性（微生物の繁殖の管理）の検討も必要と思われる。</p> <p>・堆肥成分の安定化を目指した発酵法の研究とコスト低減技術を開発すべきである。</p> <p>・望まれる技術開発であるが、県内の家畜排せつ物のどれ位（何％）をこの方法で処理しようとしているのかが不明。</p> <p>・重金属等の成分調査も必要。</p>	<p>・ブレンド堆肥の価格は利用する堆肥および油かす（680円/kg）の価格に左右され、「ブレンド」という作業に伴う特別なコストが発生するものではない。</p> <p>県内家畜排せつ物堆肥の販売価格（円 / t）</p> <p>・試験を反復することにより、微生物の活動および消長の結果として生じる発酵温度変化、堆肥成分の変化等から「条件が同じであれば同じ結果を生ずること」を確認する。</p> <p>・家畜排せつ物堆肥の安全性の確保については、病原菌や寄生虫、雑草の種子を死滅させること等が挙げられる。これらを死滅させるには発酵温度を60以上数日間続けることが必要であり、本試験では、この条件を満たすことを最低限の条件として取り組んでいる。</p> <p>・当然、コスト低減技術も目的の一つとして研究を進めている。</p> <p>・堆肥を生産している畜産農家の約半数が出荷先の確保に苦慮しており、堆肥（約146千トン）の円滑な流通を促進するための1つの技術としてブレンド堆肥等の技術開発に取り組んでいる。</p> <p>・副資材回収型堆肥化技術は副資材の調達が困難または購入している農家が対象であり、家畜排せつ物量ベースでは約20％と推定される。しかし、この技術の導入には副資材の回収装置など初期投資を要するので、技術導入は限定的になるとと思われる。</p> <p>・本試験において供試している堆肥および原材料については重金属（銅、亜鉛）の含有量を把握している。</p>